

2月県議会 小林伸陽県議の一般質問

県産材、安定供給のネットワークの整備すすめる

——林務部長答弁

県議会二月定例会で9日、日本共産党の小林伸陽県議が一般質問を行いました。

県産材の利用促進について、小林県議は「消費者と加工業者、生産者のミスマッチは深刻。調達、製材、販売ルートの確立が急がれる。全県的ネットワークづくりを検討すべき」と迫りました。鷹野治林務部長は「県産材の安定供給のネットワークの整備をすすめる」とこたえました。

特色ある米作り農家への支援求める

小林県議は、有機米や特別栽培米をつくっている農家の努力と工夫は想像以上に大変。南安曇郡豊科町で行なっている米づくり農家への支援を紹介し、県の支援策を求めました。鮎沢光昭農政部長は、「16年度からはじめた自然にやさしい化学肥料を削減する事業を、さらに大幅に拡充する。有機栽培などの農業者について、県の目が行き届いていなかった。新年度予算で、これらの活動へ助成し支援していく」と答えました。

また、凍結していた小諸市御牧ヶ原の10万トンのため池事業の工事再開について「下流住民から工事再開に反対する文書届けられているが、どう対応するのか」とただしたのに対して知事は「私も現地に行って関係者と話しをさせていただく」とこたえました。

時代の流れに即した公文書公開の新しい基準の作成を！

公文書の情報公開について「メールを含めた公文書公開の新しい基準の作成を早急に行う必要がある」と小林県議が迫ったのに対して、田中康夫知事は「メール管理の仕方から検討し、情報公開の全般的運用基準を定め透明性をはかりたい」とこたえました。